

あ さ く ら し も き ょ う で ん い せ き

# 朝倉下 経田遺跡

## 調査の概要

事業名 平成19年度今治道路埋蔵文化財発掘調査

調査委託者 国土交通省四国地方整備局

調査受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

遺跡名 朝倉下 経田遺跡

場所 今治市朝倉下

調査面積 25,800m<sup>2</sup>

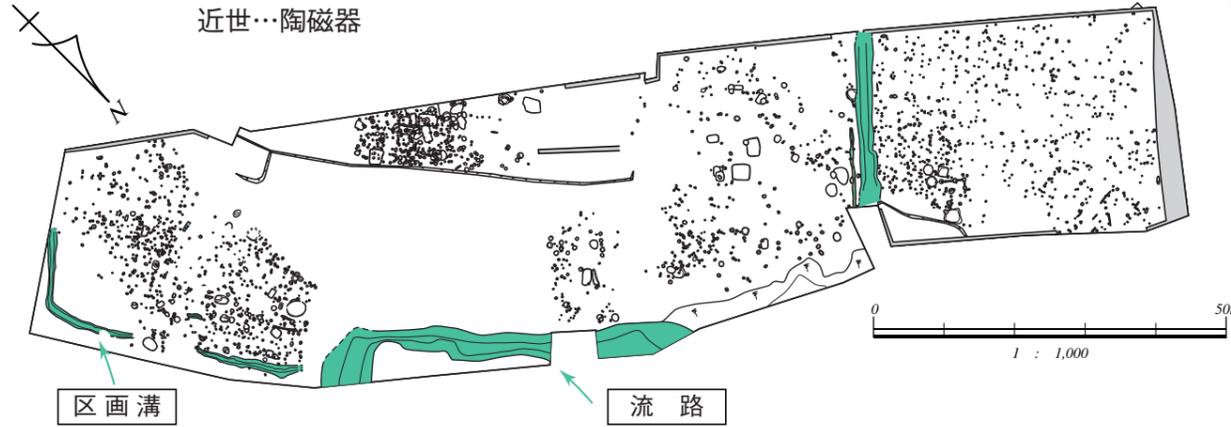
調査期間 平成19年4月1日～平成20年3月25日(予定)



f-2区で見つかった道路状遺構 (頓田川左岸から南西方向にのびる)

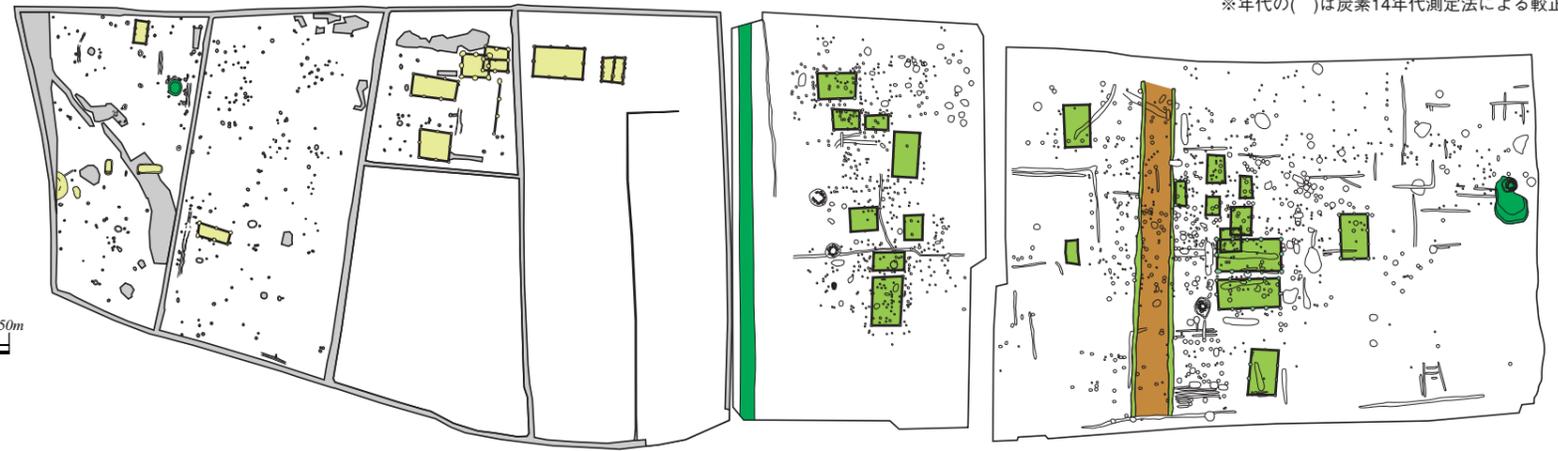
# 中世・近世 (平安時代末～江戸時代)

- 遺構 掘立柱建物・道路・土坑・墓・井戸・溝・小穴  
 遺物 中世…瓦器椀・土師器(皿・杯・釜)・瓦質釜・備前焼(甕・壺・すり鉢)  
 常滑焼甕・中国陶磁器(碗・皿)・銅銭・鉄剣・刀子・鉄滓  
 近世…陶磁器



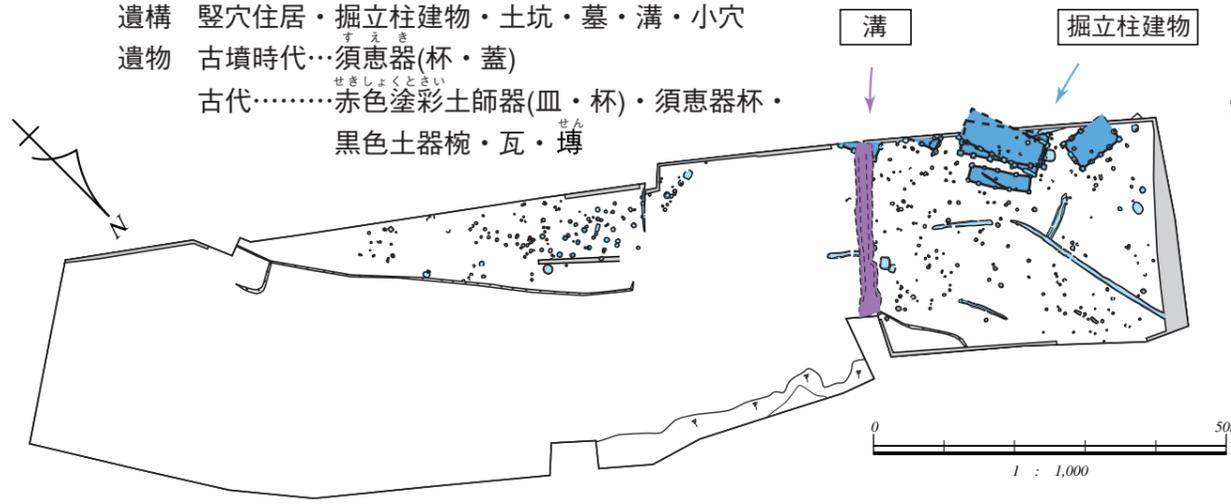
BC 3200	* (BC 1300)	BC 400	BC 300	BC 200	BC 100	* (BC 800)	AD 1	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	
旧石器時代		縄文時代				弥生時代		古墳時代		古代			中世		近世		近代								
(中期)	(後期)	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代				

※年代の( )は炭素14年代測定法による較正年代



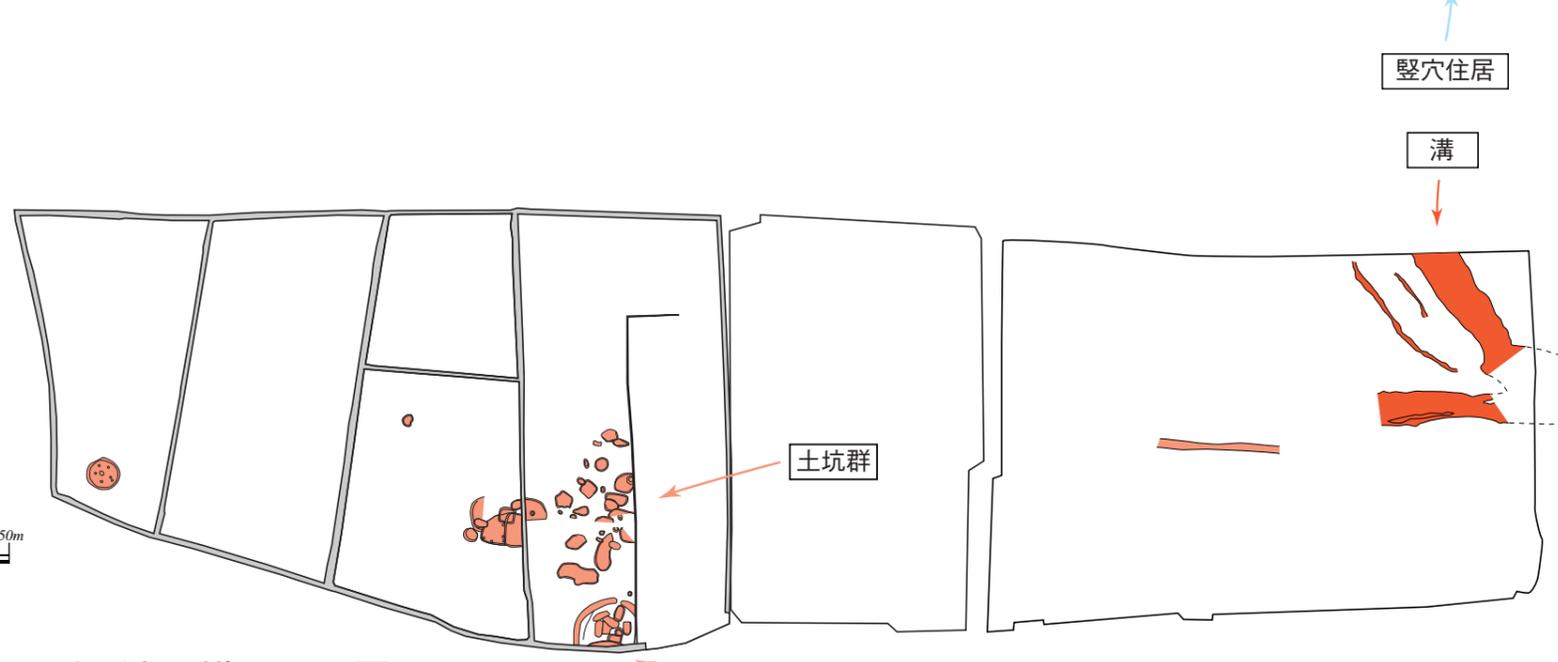
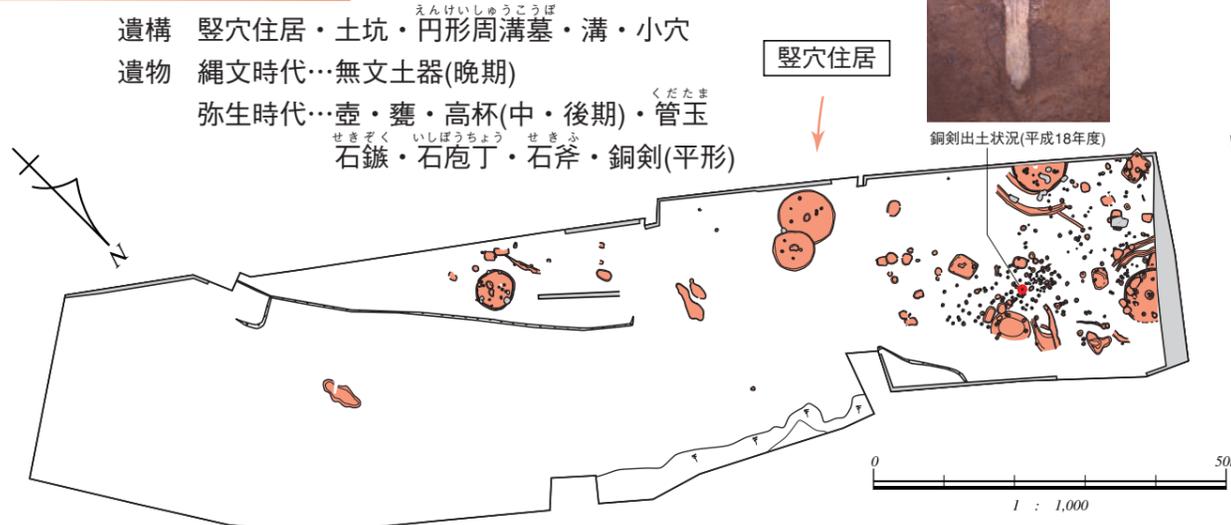
# 古墳時代・古代 (飛鳥時代～平安時代)

- 遺構 竪穴住居・掘立柱建物・土坑・墓・溝・小穴  
 遺物 古墳時代…須恵器(杯・蓋)  
 古代…赤色塗彩土師器(皿・杯)・須恵器杯・  
 黒色土器椀・瓦・埴



# 縄文時代・弥生時代

- 遺構 竪穴住居・土坑・円形周溝墓・溝・小穴  
 遺物 縄文時代…無文土器(晩期)  
 弥生時代…壺・甕・高杯(中・後期)・管玉  
 石鏃・石庖丁・石斧・銅剣(平形)



時代別遺構配置図

円形周溝墓(区画墓)

# 中世の道とその周辺に広がる集落

- 凡例 SB—掘立柱建物 SK—土坑  
 ST—墓 SE—井戸  
 SX—性格不明遺構 P—柱穴・小穴



ST83(鉄剣の出土した墓)



SK101(土師質土器の出土の様子)



SK129(穴の中にまとめて入れられた土器)



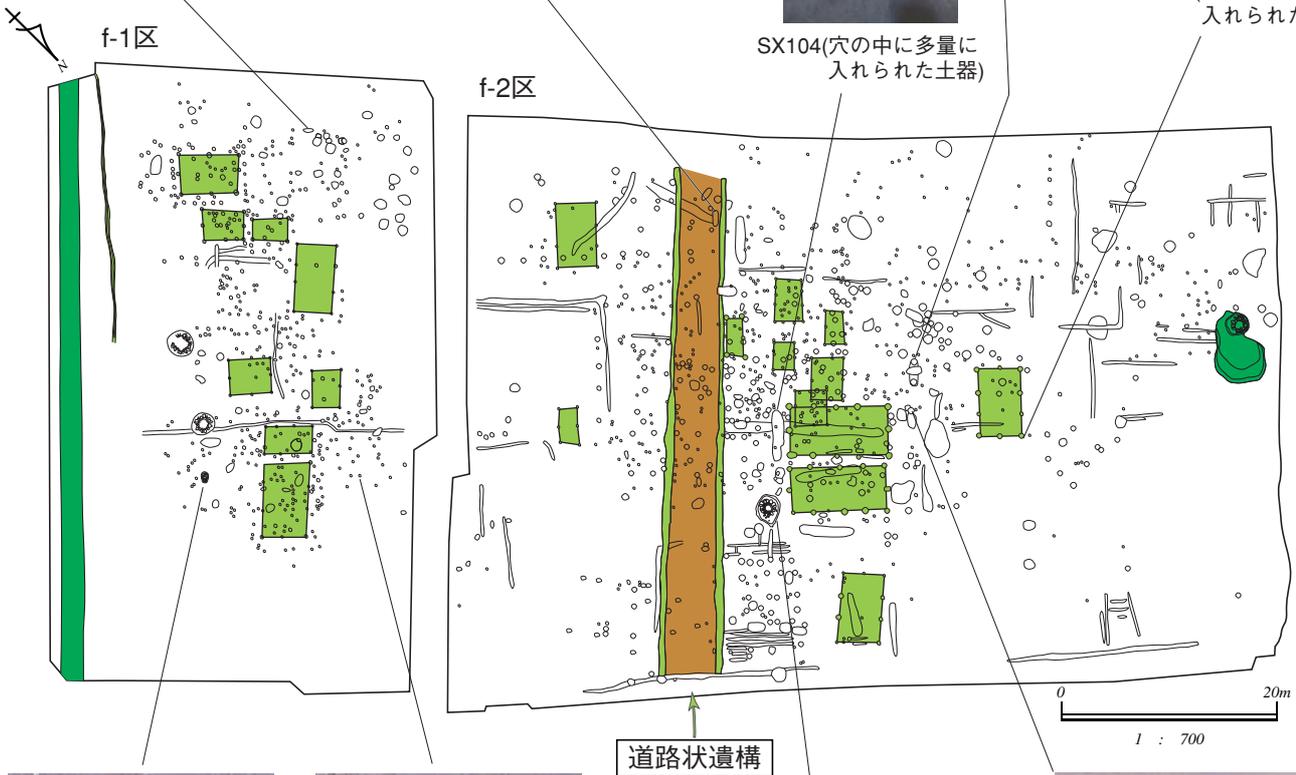
SB53 P6上層(土師質土器が重ねて入れられた柱穴)



SX104(穴の中に多量に入れられた土器)



SB53 P6下層(土師質土器が重ねて入れられた柱穴)



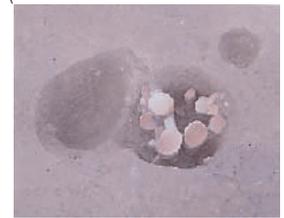
ST93(石を組んでつくった墓)



P2476(土師質土器と鉄製刀子・銅銭が出土した柱穴)



SE03(井戸の上面から出土した土器)



P3729(土師質土器をまとめて入れた柱穴)

今年度の調査では、中世(鎌倉時代～室町時代)の掘立柱建物や井戸・墓・土坑・区画溝のほか多数の柱穴が見つかりました。

なかでも、北東—南西方向にのびる道路状遺構は、条里地割に沿って見つかり、頓田川左岸から南西へと道がのびていたことがわかりました。道の幅は4～5m、確認された長さは約50mあり、道の両側には溝が取りついています。この道は条里が整えられた後に作られ、集落が形成されていた13～14世紀の間使われていたと考えられます。このような中世の道が調査によって確認されたのは、県内で初めての例となります。

また、集落内のあちこちで、土師質土器の杯や皿が一つの穴や柱穴からまとめて出土しています。意図的に入れられたような状況が見られ、儀礼や祭祀と結びつけて考えられます。ここでは集落の廃絶時に行われています。